



# キハダ

## 中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍): 周年(未成魚・成魚)  
はえ縄(生鮮): 周年(成魚)

## 生態

昔は缶詰や魚肉ソーセージの原料でしたが、現在では刺身や寿司ネタなどの生食用にも供給されています。

### ●分布・回遊

熱帯域から温帯域にかけて広く分布しています。夏季には緯度40° 近くまで分布しますが、冬季には緯度30°以上に分布することは稀です。

若齢の小型魚は、同じ大きさのメバチやカツオと群を作ることがあり、主に表層に分布します。成長すると単独群れとなり、より深い層にも分布するようになります。

### ●産卵期・産卵場

水温24℃以上の水域で、ほぼ周年行われていますが、熱帯域における産卵盛期は西部太平洋で12～翌年1月、中央太平洋で4～5月と報告されています。

### ●成長・成熟

成長は1歳で尾叉長60cm程度、2歳で110cm程度、3歳で130cm程度に達します。寿命はメバチより短く、7～10年と考えられています。

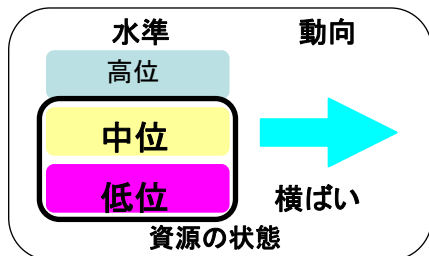
成熟は雌の生物学的最小形は体長60cm程度ですが、50%成熟するのは105cm程度と報告されています。



キハダ幼魚(成魚と異なり背鰭と尻鰭は小さい)

## 漁業・資源動向

### 【資源】



- 産卵資源量、性比、年齢別成熟率、一回当たりの産卵量、産卵回数の情報を考慮した産卵可能指数は1990年代から減少傾向にありましたが、近年は大きな変動は見られていません。また、加入量は1965年～1990年にかけて大きな変動傾向はみられませんが、2010年以降は増加傾向にあります。
- 2012年から2015年の平均産卵資源量は限界管理基準値を上回っており、平均漁獲努力は限界管理基準値を下回っています。
- これらのことから2017年の資源評価では、資源の水準は中位から低位と推定され、資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲努力が過剰でない可能性が高いと報告されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 [http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01\\_14S\\_YFTWCPO.pdf](http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01_14S_YFTWCPO.pdf)

詳細 [http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01\\_14\\_YFT-WCPO.pdf](http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01_14_YFT-WCPO.pdf)

### 【漁業】

- 2004年以降、太平洋全体では年間48.6～69.0万トン、日本では年間4.2～6.8万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への水揚量は、2.1～3.6万トンで推移しています(図下)。
- 主に遠洋のまき網で漁獲されています。

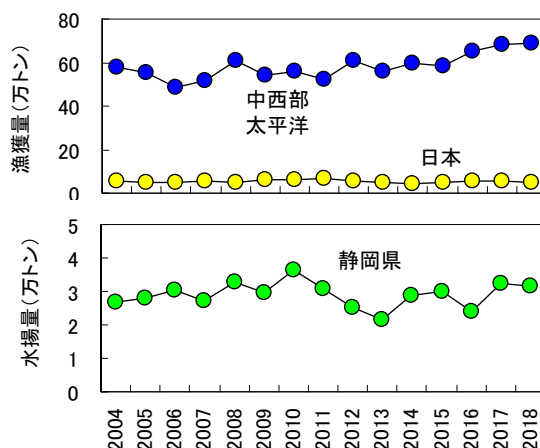


図 中西部太平洋と日本のキハダ漁獲量の推移(上)と静岡県のキハダ水揚量の推移(下)

担当者の一言: 夏季に静岡県沿岸に小型個体が来遊し、地域によってキメジ、キメ、チャップなどと呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817